IGF 2023に向けた国内IGF活動活発化チーム
第18回会合議事録

1. 会合の概要

日時：　2022年5月9日(月)17:00～20:00
会場：　オンライン
主催：　一般社団法人日本インターネットプロバイダー協会(JAIPA)
　　一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター(JPNIC)

参加者数：　17名

参加者一覧（五十音順・敬称略）：

井上　靖代　獨協大学
加藤　幹之　MK Next　（司会進行）
兼保　圭介　NEC
上村　圭介　大東文化大学
木村　孝　JAIPA
佐藤　信二　個人研究者
実積　寿也　中央大学
Yuji　Suga　Internet Initiative Japan Inc.
高松　百合　JPRS
立石　聡明　JAIPA
浜田　忠久　JCAFE
堀田　博文　JPRS
本田　聖　個人
前村　昌紀　JPNIC
森口　友里　株式会社インターリンク
森下　大　総務省
山崎　信　JPNIC　（議事録案作成）

2. 発言録

【加藤】ということで、時間になりましたので、始めさせていただいております。
今日も皆さん、お忙しい中ありがとうございます。今回、司会役を仰せつかったというか、半分ボランティアで手を挙げさせていただきました加藤です。よろしくお願いします。

今日、山崎さんが用意していただいたアジェンダに沿って進めていきたいと思います。毎回いろいろ重い議論があるので、なるべく皆さんの御意見を多く発言していただきながら、かつ、やはりこういう会議ですから、決めたいことはなるべく決めていくと。いろいろタイムラインが押している問題があるので、そういうことをやらせていただきたいと思います。

先日、メーリングリストの中で書きましたけれども、ICANNとかIGFではよく御存じだと思いますけど、なるべく多くの方にポイントを発言いただくために、意見が増えてくると、1分間ルールとか3分間ルールといって、ポイントだけ言っていただいて、こういうふうに考えるとか、これに賛成とかいうことをなるべく手短に発言していただくという、そういうルールもあるので、厳密に運用しようとは思いませんけれども、ある程度必要であればそういうことを司会の権限という範囲でやらせていただきたいと思います。

ということで、まず本日のスケジュールと打合せの目的確認ですね。ここに書いていただいているとおり、まず2023年ホストである日本政府としての準備報告、これをやっていただいて、今日、MAG会合の件で河内さん、今回ちょっと御都合が悪くて御欠席なんですけれども、前回に比べるとあまり大きな進展はないと思っています。それで、その後、大きなところとして秋のイベントと、NRIの組織づくりの話等々をやらせていただきたいと思います。

それで、まず前回の振り返りですけれども、これはかなりがもうここに書いていただいているとおりなので、ざっと御覧になっていただいて、何かこの内容で確認していただいているんですが、さらに付け加えとかいうことはございますか、秋のイベント等。プログラム委員会に関係することは、この後詳しく進めさせていただきたいと思っていますが。何か前回の会議で書き足りなかったこととか、コメントいただくことはございますか。

よろしいでしょうか。ちょっと進めていただけます？山崎さん、資料を秋イベントに。

この辺は全部後の議論の中でカバーされてくると思います。この黄色の色がついているところですね、これは今日さらに議論をするというか、決定をするという、そういうことに関係しています。

それから、秋イベントの名称のところは、これは基本的にポツ2の「インターネットガバナンスフォーラム2022～2023年日本開催を見据えて」という、これで決まったというふうに理解しております。これはもうそういう意味で、ラストコールを何回かかけたという状況だと思います。

それで、秋イベントのテーマ、これは今日決めていただくということで、追加の別の意見がないかということを伺っていただいていたはずですけれども、今のところそういうのは上がってきていないので、後でちょっとそれに触れさせていただきたいと思います。

それから、組織化ですね。これ、前村さんが中心になってやっていただいているので、ぜひ今日は詳しく議論できる時間を取らせていただきたいと思います。

それで、あとはユースとかチーム会合の運営、この辺について、前回はそこまで議論する時間がなかったと理解しておりますけれども、今日はその辺もやりたいと思います。堀田さんからその辺の御提案

というのも出ているので、後半、堀田さんが入られた時点で、そういうものをうまくカバーできるようにしたいと思います。

ということで、次のアジェンダ項目は、宿題の進捗確認ですけども、基本的に……。

あ、堀田さん、ありがとうございます。今、参加されたということで。

基本的な進捗状況については、ざっと見ていただくとあれですけれども、ペンディング事項は全部これ、山崎さんにおんぶにだっこの議事録とか、その辺の作業の部分かなと思っています。

1つ、もうちょっと前に戻っていただけますか。念のために申しておくと、ちょっとその後で、もう少し後ですかね、何か項番でいうと39、もっとずっと下に行っていただけます？これですね。

96というところで、本田さんがプログラム委員会のカバー範囲提案ペーパーを作成するというふうに触れられた部分があるんですが、その後、本田さんも含めていろんな方の議論があって、A案、B案、これからもう1回確認しますけれども、その辺の議論をしたいと思いますので、そういう中で吸収すればいいかなと私は思っていますが、それでよろしいですかね。これ、改めてもう1回この紙を今、作るというよりは、もともとプログラム委員会というか、あとイベント委員会、エンゲージメント委員会というか、3つのグループがあるというのを、その前に堀田さんがまとめていただいたのがもう大分前にあったと思うんですけれども、そういうものを踏まえて、今のプログラム委員会の立ち位置をどうするかというのを今後、後で確認ということで、そういう意味ではこれ完了にしていただいていいのかなと私は理解しております。

よろしいですか。いや、これはもう一度何かやるべきだというのがあればあれですけども、内容自身は今まで十分カバーしてきた内容だと理解しています。

よろしければ、もう1回アジェンダに戻っていただけますか。以上が前回までの振り返り、それから宿題の確認ということで、引き続きいろんな方から状況報告をいただきたいと思います。

まず、飯田さんは今日、御参加ですか。政府の関係の今の進捗状況、検討状況というのを御報告いただければと思いますけど、いかがでしょうか。

すいません、総務省の方、どなたか……。

【山崎】森下さん、部署が違うのでお答えづらいかもしれませんけど、今日は飯田さんが参加なさるご予定かどうか、御存じでしたら、ぜひ。

【森下】お世話になっております。データ通信課の森下と申します。飯田が今日参加できるかどうかというところ、山崎さんに今おっしゃっていただいたとおり、私どもはちょっと分からない状況でございまして、参加次第、そちらの現状認識共有のほうに押させていただければと思います。よろしくお願いいたします。

【加藤】分かりました。ありがとうございます。そういう意味で、せっかく一言御発言いただいたので、データ通信課として何か、今回のこの取組とか、2023年に向けてのお考えとか、何かこの際一言伺っておくようなことはございますか。

【森下】ありがとうございます。我々といたしましても、政府の立場というところから何か御支援できることがあればやらせていただきたいなと考えております。よろしくお願いいたします。

【加藤】よろしくお願いします。ぜひ御支援いただきたいというか、御指導いただきたいことは、恐らくここにいる皆さん、山のようにあると思いますので、ぜひよろしくお願いしたいと思います。

それじゃ、飯田さんがもし御参加になれば、その時点で前回のアップデートがあるかどうかを伺うということで、次に進みたいと思います。

次はIGFのMAG報告ですけれども、これも今日ちょっと御都合が悪いということで、河内さんからは特にないんですけれども、前回ニューヨークでの特別の会合とか、MAGでのやり取りについて御報告いただいていて、その後、二、三週間、あまり大きな動きはなかったのかなというふうに私なんかは理解しているのですけれども、何かその辺、IGFのほうでこんなことが今起こっているということについて、何か御存じの方がいらっしゃれば。いかがですか。それについて、また改めてMAGの状況というのを河内さんに伺うと。特に河内さんからも何も連絡がないということは、何かこの場でぜひ議論したいとかいうこともないということだと理解しています。必要であればもう一度、次回のミーティングの前に、アップデートとかあれば、一言でも河内さんから書き込んでいただくというふうにお願いしたいと思います。

いかがですか。何か御存じの方。MAGというよりはIGF自身について、こんな動きがあるということを御存じの方はいらっしゃいますか。

私、全部を見られないかもしれないので、もしどなたか手を挙げられたりしたら、発見した方が教えてくださいね。よろしくお願いします。

じゃあこれも今のところないということで、報告等、日本の連休に合わせて、少しこの二、三週間は静かだったというふうに理解します。

今回、一番重要なイベントということで決めたいこととして、秋イベントについてということで、堀田さんも入られたので、最初に堀田さん、この件について何かコメントいただけますか。ここに黄色をつけていただいている決めたいこと、結論が必要なことというのは順にカバーしていきますけれども、最初、全体について何か堀田さんからコメントはございますか。

【堀田】堀田です。秋イベントのプログラム委員会の話ということでいいんですかね。

【加藤】ええ、それももちろんです。

【堀田】私が送らせていただいた資料、これですね、どうもありがとうございます。ちょっと上から簡単に説明させてください。

【加藤】そうですね。もうこれに沿って、オープンアイテムというのが先ほどの黄色の網かけ部分が全部カバーされているので、これで全部言っていただくのが一番いいかもしれないですね。

【堀田】ありがとうございます。最初に依頼A、依頼Bと書いていますけど、この依頼Aというのがフォーマルには決まっていなかったので、これはもう今日決めていただきたいということですね。要はプロ

グラム委員会というのが秋イベントの全責任というか、全部を抱えますということを決めていただくというのが依頼Aです。

依頼Bのほうは少し大きな話になるんですけど、秋イベントって何なの、何のためにやるの、どうなったら成功、どうなったら成功というのは定量的にどうというよりも、何をしたいのというのがどうも決まっていないねということだったので、その2つについて議論いただきたいと。Aのほうはもう正式に決めていただきたいということです。

2のほうに行きます。守備範囲については、A案、B案、もう細かいことはお話ししませんけども……。

【加藤】もうちょっと下にスクロールしていただけますか。

【堀田】B案しかこの時期になるとないねという、時期の問題もそうですし、人的リソースからも、細かく分割するというのは分割数も多いから、ちょっとやめたほうがいいねということで、ラフコンセンサス的なところまでは取れていたかと思うんですけども、これでプログラム委員会の概要を書いてみようということに、前回までに決まったというふうに理解しています。これについては加藤さんのほうからコメントをいただいていると思いますが。

【加藤】ありがとうございます。私も、今までの流れとして、もう1回A案で、それでは別のイベント機能とか、そういうのを別につくるとして、どういう組織でやるのかと、もうそういうことを今からやるということもできないので、今回はプログラム委員会ということで全体をカバーしていただくという方向で、もう既に大体そういう流れになっているかなと思っております。そういう意味で、B案で確定していただければと思います。

【堀田】ありがとうございます。さらに高松さんのほうからコメントをいただいていると思います。

【高松】すいません、私もスピーカーから連絡ですけども。こちらのコメントのほうにつけさせていただいたとおりで、私もB案のほうで賛成です。以上です。

【堀田】ありがとうございます。では、前回までの方向をサポートいただいているということで、このまま説明を続けたいと思います。

3の経緯のところですが、ちょっと枠が途中で挟まったりしていますけど、経緯はもう今日いらっしゃっている方は皆さん御存じの方かと思いますので、スキップしたいと思います。

ずっとこの箱を最後まで行ってください。箱の最後、4のちょっと上に書きましたけど、つまり、2022秋イベントのことは全部このプログラム委員会が担当するというのがB案だということになります。

残課題ということで、これ、加藤さんから最初に紹介いただいた黄色いマーカーがあった部分です。B案とすることによるプログラム委員会への追加タスクを明確にしましょうという、これが2か月半ぐらい止まっているので、書き出すという作業を高松さんとか山崎さんの力を借りて書き出しましたというのが、これ、最後のほうに出てくるのかな、があります。後で見ていただければと思います。次節の「5. プログラム委員会の主タスク」の節で議論。

(2) ということで、B案とすることによるプログラム委員会メンバーの追加募集。これは追加募集し

なくてもいいんじゃないという御意見もあったんですけど、最初にプログラム委員を募集したときは、基本的には評価をやります、去年と同じです、それにちょっとプラスアルファはありますけどというような募集の仕方をしているので、ある意味イベントに関わってくれる人を全部総ざらいしたという格好にはなっていない、少なくとも形上はなっていないので、もう一度ここで総ざらいはしたほうがいいんだろうなと。つまり、手を挙げるつもりだった人全員に、再度全員に声をかけるということをやったほうがいいかなと思っています。これは後で主タスクを見てみると、いろんなことをやるんだねというのは分かるので、つもりだった人だけじゃなくて、さらにやってみようかなという人ももう一度手を挙げる機会をつくりたいと思います。

【加藤】これは、堀田さん、プロセスとして、既に10人近く、前、たしか山崎さんが現在の人をリストしていただいたと思うんですが、それを常にオープンにして、委員会としては走り続けるということでよろしいんですね？

【堀田】それでいいと思います。

【加藤】募集は常にオープンですということ……。

【堀田】集まるまでやらないということではなくてですね。

【加藤】そういうことですね。分かりました。特に、取りあえずはこのイベント、プログラム、もともとのプログラム委員会で決められていた募集に関連する作業ですね、そういうところがスタート地点なので……。

【堀田】そうですね。

【加藤】そこはもう今までやっていただいている方がどんどん進めていただくということですね。

【堀田】はい。上村さん中心にやってきたセッションの提案募集についてはもう、すぐに走り始めていいかなということで……。

【加藤】そういうことですね。

【堀田】それから、(3)「追加タスクへのメンバーアサイン」と書きましたけど、今までの感じからして、去年を見ていても、使命感だけで、みんな使命感を持っているんですけど、使命感だけではなかなかボランティアは実効ある動きができないので、やれる人がやるというのはもちろんなんですけど、例えば当日3時間拘束とか、英語必須とかいうのがあるのであれば、プリアサインはしておかないとちょっと危ないなと思っています。これは走りながら考える中の1つかと思います。

【加藤】堀田さん、その場合、ここで言われているのは、プログラム委員会の中で、じゃあここは誰がやろうかというのを決めていただくという感じでよろしいですよね。

【堀田】それでいいと思います。

【加藤】この活発化チームに全部持ち込まれるという内容ではないということなんですね。

【堀田】ではないと思っています。

【加藤】分かりました。ありがとうございます。

【堀田】活発化チームの中でタスクアサインをするということですね。

それから（4)、これは皆様がちゃんと議論でできていないというか、なされていない項目なんですけど、プログラム委員会というのは代表と副代表ぐらいは選任しておかないと、なかなかでかい仕事をする、極端に言うと、イベント全体に責任を持つ委員会になるので、強いリーダーシップと信頼が必要かと思いますので、必要ですねということをまずは書きました。誰がいいとは書いていないですけど。これに……。

【加藤】自薦はないんでしょうか、堀田さんの。

【堀田】他薦はあるんですけど。人の名前をどうするかというのは、ここの場で議論するのか、また別途というのは、今日の議長にお任せしたいと思うんですけど。

【加藤】分かりました。

【堀田】少し右のほうにコメントいただいているので……。

【本田】ちょっと一言言わせてください。

【加藤】本田さん、どうぞ。

【本田】ちょっと一言言わせてください。リーダーシップはもちろん大事なんですけれども、リーダーシップ云々ということが問題なんじゃないと思うんです、私は。要するに、今、一応もう2人、最初に手を挙げたプログラム委員会で、上村先生と、もう私も手を挙げて、さあやろうと言っているんだけれども、そのやろうと言ったところで、いろいろあれこれと来てしまうと、前へ進めなくなってしまうんですよ。だから、細かいことはやっぱりプログラム委員会にお任せをしていただかないと。だから、プログラム委員会のやっていることで文句があれば、プログラム委員会に入ってきて話をしてくれればいいので、プログラム委員会で決めたことを、この全体会合でまたひっくり返すというのはなしにしてくださいというのが1つ。

それから、予算をきちんと確保してください。イベントを委員会でやる、やるのはいいんだけども、私はお金、打ち出の小づちじゃないから、やるならやるで、取りあえずその組織化ができるまでの間は、JPNICがお金を半分出しますと、JIPAも半分出しますと、日本政府かどこかから、分からないけども、お金をJIPAに送れば、JIPAなりJPNICに送りますと、そういうスキームをしっかりしてください。そこがないと、我々は何のお金も動かせないし、何のイベントも成功できません。

以上です。

【加藤】分かりました。ちょっと今の点は別途検討しますが、まず、堀田さんのプログラム委員会の代表・副代表の件は、このいろんな決定事項を検討した後で、少し皆さんの御意見をいただきたいと思います。

私の理解では、先ほどの経緯からも分かるように、セッションの募集については上村さんがかなりリーダーシップを取っていただいていますし、プログラム委員会の活動について昨年から堀田さんがいろいろサポートされていると、そういう流れがあるので、その辺も考慮して、2022年のイベントをどうい

うふうにやるのかという、責任を持ってやっていただく人の代表を考えるというのは、1つ重要なことかなと思いますので、アジェンダとしてちょっと順番を後にさせていただければと思います。

ということで、その大方針のところ、いかがですか。今、本田さんが言われた、話がどんどん、また決まらないと言うんですけど、活発化チームで決めることということで、プログラム委員会から上げられているこの7つぐらいのことは、今日もうおおむね決めたいと思いますので、あとは必要に応じて活発化委員会に上げていただくとして、基本的にはプログラム委員会で決めていただくということだと思います。

ということで、堀田さん、引き続きお願いします。決定必要事項ですね。

【堀田】はい。そうですね、(5) が活発化チームの判断事項だと思っています。ですから、ちょっと戻りますけど、プログラム委員会の代表というのはプログラム委員会の中で決めて、それを活発化チームにお知らせすればいいというものだろうなと私も思っています。

【加藤】そうですね。それは、代表ということになると、一応活発化チームにもお声をかけていただくのかもしれませんが、基本的にはプログラム委員会の代表というか、その中で誰が一番、代表としての責任を持つかということなので、基本的にはプログラム委員会で考えていただくということかなと思っています。

【堀田】では、大方針のほう、(5) に移らせてください。これは活発化チームのほうから、おまえたちは何のために動くんだということをプログラム委員会は言ってもらわなきゃ駄目なんで、それがここにある項目だと思っています。かつ、前回までもそうなっていたと思います。

まず、開催目的について……。

【本田】堀田さん、すいません。もう少し文章に頼らない説明をお願いします。文章だけだとログに残りませんので。ここを御覧くださいとかではちょっと分かりづらいので、もう少しあらましを説明していただけませんか。

【堀田】あらましですか。大体読めば分かるぐらいに書いてあるので、それに沿って説明していますが、もっと説明が要るということですか。

【本田】声だけ聞いていても分かるレベルに、簡単な概略の説明を入れてくださいということです。それでないとログに残りませんし。

【堀田】加藤さん、どうしましょう。

【加藤】いや、今の質問の意味がちょっと分からないので、まず、何が分からないのか、もしその部分が違うということであれば、意見をいただくということで進めてください。

【本田】いや、私が声で聞いていて分からないことが多々あり過ぎて分からない。ここを御覧くださいとか……。

【加藤】本田さん、申し訳ないですが、何を質問されているのか分からないので、もう一回言っていただけますか。

【本田】私は、今日はたまたま耳だけ参加なんですけど、ここを御覧くださいとか、この資料に書いてある云々と言われても分からないので、大項目5はこれで、これこれで、こういうことをこういうふうにすることについてですが、と言った上で説明をしていただかないと、中身がさっぱり分からないということになってしまうので、それだと……。

【加藤】申し訳ありません、本田さん、これはルールとして決めたいですが、音だけ参加で全部読んでくださいというのは、ちょっと会議の進行上無理なので……。

【本田】そんなことは言っていないです。

【加藤】司会の判断で、ちょっとそれは……。

【本田】申し訳ない。そんなことは言っていないんですよ。普通は、会議というのはもう何度もやられているからお分かりだと思いますけど、項目1、何とかの件について、何とかで何とかとなりますという、詳細は資料を御覧くださいなんですよ。そこはやり方の問題です、申し訳ないですけど。

【加藤】だから今、何をしろと言っているのかよく分からないんですけど。

【山崎】山崎ですけども、本田さんが言っておられるのは、資料が見えないから、なるべく口頭で説明してくれというふうに私には聞こえてしまうんですけれども、違いますか。

【加藤】僕もそう聞こえるんですが。それは全部資料を読めというのは無理だというふうに……。

【本田】全部を読めとは言っていないです。全部を読めとは一言も言っていないです。まずは……。

【加藤】本田さん、個別のことであれば……。

【本田】5番の件は資料を御覧くださいと、ここを御覧くださいと、それでは5番は何の件についてですかという質問です。

【堀田】ごめんなさい。5番は大方針、活発化チーム判断事項についてですというふうに申し上げたつもりなんですけど、それしか書いていないのかどうかは多分、本田さんには分からないんですよね。だから、書いてあることを全部、きちんと重要なところを読みましたかという質問だとしたら、読むようには努力していますとしか答えられないですね。

【加藤】みんな同じものを見ているんですよ。それで、堀田さんにさらに何を求めているのか、僕には分からないです。それも分からないというのであれば、ちょっと、本当に、会議の進行を理解されていないとしか思えないので、次に移らせていただきます。

堀田さん、目標はというところでさっき止まったと思いますけど、よろしくお願いします。目的はというところです。

【堀田】そうですね。その大方針で今日決めていただきたい事項の中に7つ項目があって、その1つ目は、開催目的及び目標は何なんでしょうねということが、前回までにも話、口頭では出ているんですけど、整理されたものがないねということで、活発化チームのロードマップというのを、ジャスト・フォー・ディスカッションなんですけど、私のほうで書いて資料をメーリングリストに投げたものがあります。何日か前に投げたものがありますと。その中に幾つか重要なポイントを書き込んだつもりですので、こ

れを皆さんのほうで見ていただいて、そうだねとか、いや、違うねという話をまずするというのが、今日1つ重要なことかなと思っています。

【加藤】それからやりますか、堀田さん。僕、あれを拝見していて、大変ビジブルに全体の流れがよく分かる貴重な資料だと思ったんですが、この活発化チームの中で、プログラム委員会で2022年にやる活動と、その組織化の話とタイミングを組み合わせていって、だからこうするという、その辺の流れを書かれたんだと思うんですけれども、そこが目標というふうにお考えということですか。

【堀田】そうですね。それによって目標が設定できるんだろうと考えています。

【加藤】そういう考えも1つあると思うんですが、僕がメーリングリストにちょっと書かせていただいたのは、2022年の会議というのは、2023年に向けてさらにIGFの日本での活動を拡大するという、そういうことが本来的にあるのかなという、そういう意味の目標ということを1つ、まずもう一度確認するということかなと思ったんですけど、その部分はあまり関係ないですか。

【堀田】いや、関係あると思っています。加藤さんのおっしゃるとおりで、この秋イベントはどうなればいいんだろうねということはもちろん重要なことなんですけど、そのどうあればいいんだろうねということに軸を置くと、そこに向かって遡って、例えば今こんなことをやっておかなきゃねとかいうのがイベント側にも出てくるし、組織化のほうでも、じゃあ誰に最初に声をかけるのがいいんだろうねというのが分かってくるということで、加藤さんがおっしゃるように、秋イベントから遡ってロードマップを書いてみたというふうに思っていただいたほうがいいかなと。

【加藤】そういうことですよね。ちょっとそれが心配なのは、組織化がタイミングがずれてということになると、なかなかそこがマッチングしないと、目標が外れてしまうということになるかもしれないので、そこは1つ検討事項かなと思うんですが。

それでは、この機会に堀田さんから提案していただいたロードマップの図を説明していただいて、皆さん、まず最初の御意見をいただくことにしませんか。

【堀田】私はそれでも結構です。

【加藤】お願いします。

【堀田】じゃあそれで進めさせていただきます。

ですから、逆に遡ってというふうにすると、じゃあ秋イベントってどういう目的があり得るだろうねということで、これが全部実現できるかどうか分からないんですけど、今までの議論からすると、まず秋イベントの1つ目、図でいうと⑧と書いてあるものなんですけど、新法人のお披露目。これは何かがないと、「あ、こういうことをやるんだ、この人たちは」というのがないと駄目なので、それが1つの大きな目標になるかな、目的ですかね、なるかなと思っています。それができるかできないかは、加藤さんのおっしゃったように、組織化がうまくいくかどうかということによるんですけど。

それから2つ目は、国内のインターネットガバナンス活動というのは、こういうことをやるのがインターネットガバナンス活動なんだというのを、去年の秋にもやりましたけど、さらに広いエンゲージを

取ってやるというのがこの秋の目的の1つだろうなと。

【加藤】そうですね。

【堀田】あとは、法人ができていたとすると、その社員をさらに勧誘するとかですね。

それから、これは法人があろうとなかろうとですけども、フォーラムの参加者をさらに広げていくと。そういうところが秋にやるべきことだろうなというふうに置いてみました。

【加藤】ありがとうございます。付け加えるとしたら、2023年に日本で国連の会議を開催する次のステップとなるという、そういう重要なポイントかなと思います。

【堀田】ありがとうございます。

【加藤】だから、そういう意味で、1つでもいいから、海外、英語でイベントのセッションができればいいとか、今回そういう議論になってきているので。そういう意味で、今までよりもさらにIGFの日本での総会が活発化するという、それは2023年に向けて大きなステップになるということかなと思います。

それで、堀田さんのこの国内の法人化の動きがここで出ればすごくいいんですけど、これは今日なかなかちょっと決められないんですが、組織化のほうのこの線表は、組織化のほうで前村さんがまとめていただいて、その後スケジュール案を入れていただいたものを大体踏襲しているわけですよね、これ。

【堀田】はい。前村さんが最後に書かれたやつをマッピングしています。

【加藤】そうですよね。だから、前村さんの……。

【堀田】あと、ごめんなさい、発起人会とか、誰を誘うかというロングリストを作成するとか、少しハウにも寄って書いてあるところがありますけど、基本的に線表は前村線表ですね。

【加藤】そういうことですよね。

【前村】加藤さん、ありがとうございます。前村です。今ロードマップを拝見していますけども、とてもそこにすっぽりはまって使っていただいているということと、ハウに関しても全くおっしゃるとおりだなと思いながら拝見しています。ありがとうございます。

【加藤】そういう意味では、この表はある意味では今、この活発化のチームで議論している組織化の話と、2022年の秋のイベントの2つの大きな流れをうまくつないで、全体として活動を見える化しているという、非常にこれ、重要なチャートかなと思っています。

【堀田】ありがとうございます。もう1つだけ、細かいところは除いて、ここで言っておきたいのが、総務省さんが中心に考えられているのかどうかというのもあるんですけど、IGF 2023に向けた実行委員会、ちょっと名前は分からないですけど、実行委員会というものと、ここで言っている組織化というのはもう表裏一体のはずなんで、総務省さんとすり合わせしながら、もうそろそろ、いつ、どういう人に声をかけようかというのを始めなきゃ駄目だねというのが、この線表を書いていてとても感じたことです。ということなので、その辺り、同じ考えを皆さんと共有できればなと思っています。以上です。

【加藤】ありがとうございます。私もそこは非常に重要で、ぜひ組織化のところで、前村さんからもし後半、御説明いただく場合、その辺も、総務省さんとの働きかけのようなことも、もしアップデートが

あれば教えていただければと思います。

ということで、そういう意味で、今の目標というのは大体そういうことでよろしいでしょうかね。本来の秋のイベントでさらにIGFの活動を強化することと、それから、新組織に関連したいろんなお披露目だとか、勧誘だとか、言っていただいたこと、それでそれを基に2023年のステップにすると。こんなようなことが目標だというようなことでよろしいでしょうか。

御意見のある方はお願いします。

本田さん、お願いします。

【本田】進め方について私も物申してしまいましたけれども、基本的には文字で出せるものは、私もいつも準備していないで言いたい放題で申し訳ないんですけど、文字で出せるものは、考えはやっぱり文字で可視化した上で、それを事前によく読み込んだ上でやらないと、論点を説明して、それを読み上げてというのは確かにナンセンスなんですね。私はそれを全部やってくれと言った意味ではないので、そこは訂正しておきます。

それと、組織化はいいんですけれども、やっぱり予算をどうするかということを先に、ロードマップもくそもなくて、予算は誰が幾ら出すのという話をしてくれなきゃやっぱり困ると思います。それがまず一番先決なことじゃないんでしょうか。

それと、各、誰が関与するのかということ、それをまず持ってほしいです。それはJPRSなのか、JPNICなのか。グローチ、GMOグローバルサインなのか。ちゃんとそれをやっている、インターネットでもうけている会社が本来やるべきことなので、まずその人たちがちゃんとお金を出す、人を各社出すという……。

【加藤】ちょっと予算の話は別なんですが……。

【本田】今の状況では、とてもこれでは組織化のロードマップは描けないと思います。

【加藤】はい。

兼保さん、手が挙げられたのでお願いします。

【兼保】兼保です。久しぶりに参加します。活発な議論をされていると思って、大変何か貴重な議論だなというふうに拝聴しておりました。

前置きはそれぐらいにして、2つございまして、1つは目標、今、目標について議論されているということですので、目標に関しては、私は賛成いたします。この2つ、国内のIGF活動を活性化させるために秋イベントを活用して、その知名度及びその内容を周知徹底するということについて賛成ですし、それを機に、法人が設立されているのであれば、その法人を前に出していくというか、に移行するということについて賛成ですと。

1つ、ちょっとこの主題の目的から外れるかもしれないんですけれど、この法人化の部分について、先ほどまでの議論を聞いていると、ここに間に合うかどうかという懸念が今出てきているのかなと思っています。これからの話になると思いますが、どこかにエンドオブリターンのポイントというか、デシジ

ョンポイントみたいのを置いて、ここまでに法人ができていないと引き継げないんだというポイントを定めておくべきじゃないかなと私は思います。

【加藤】ありがとうございます。ちょっと法人化のほうは後で、前村さんからも御説明いただいて、その辺の線表もやりたいと思います。

【兼保】ごめんなさい、それを申し上げた意味としては、法人化できていないとしたならば、これまでの議論にあったように、ボランティアでこれを運営しなきゃいけないというふうに、また格下げになってしまうのかなと思って、そうすると目標が達成できなくなってしまうという、その目標のずれみたいなものが発生し得るんだということをちょっと意識したほうがいいかなと思った次第です。以上です。

【加藤】ありがとうございます。確かにちょっと誤解を与えるんですが、法人化、私の理解では法人化して、そのときにすごいお金があって、秋イベントを全部、費用も含めて全部引き継いでやるということではなくて、秋イベントはもう今のプログラム委員会の体制でやるということで、その後、その法人化がいろんな活動を秋イベントの後、引き継いでいくというタイミングだと思います。

堀田さん、前村さん、そういう認識でよろしいですね。

【堀田】堀田です。基本的にそれでいいと思います。ただ、要はイベントを誰の名前でやったかというところで、できれば法人ができていたらいいなということですね。実際に動く人間は、今動いている人間がそのまま動かないとうまくいかないと思うので、加藤さんのおっしゃるとおりに考えています。

【加藤】分かりました。それ、後に出てくるポイントで、誰の名前でやるかということに関わって、私は、基本は2021年と同じ、だけど、法人ができていたらそこをやるという、タイミングの問題ですねと書かせていただきましたので。

高松さん、お願いします。

【高松】ありがとうございます。私、基本的に目的のほうは賛成というか、認知度向上を含めて進めていくイベントの場にするということに賛成で、それの質問も、既に議論済みの、法人化がされることが前提なのかなといった辺りが気になっていた点ですので、今までの議論でその疑問のほうは解消されましたので、以上とさせていただきます。

【加藤】分かりました。

順番からいって、前村さん、お願いします。

【前村】兼保さんの御指摘というのか、御懸念はもっともだなと思います。それで、法人化を秋イベントまでにやって、よって新たな国内IGF活動の母体となる組織がそのイベントをやるメインフォースになるというのは、非常に重要なステップだと思います。

この法人化に関して、どういうふうな規模で法人がつくれるかというのは、いかんせん、ここにも発起人リスト、ロングリストから交渉してというようなところの、こういうエンゲージメントのところに関わってくると思いますので、今ちょっとそこが見通しが、やらないとついてこない、やったらついてくるというふうなレベルですので、今のところは、いろんな規模感でその法人なりというものが考えら

れるなと思っています。というのがちょっと取りあえず。

ただ、その規模に応じて、スケジュールのほうが恐らく重要で、このスケジュールに合わせる形で、そのときに実現可能な規模というのを考えるんじゃないのかなと思います。その中でも、秋のイベントに関しましては、基本的には、お金をかけてやることは可能なんですけども、一方でお金をかけないしつらえというのはできなくはないと思っているというのが私の理解です。

以上です。

【加藤】ありがとうございます。

本田さん、手短にお願いします。

【本田】いや、手短ですけど、いつも。何かずれていませんか、それ、加藤さんがおっしゃっていることは。イベントのために法人化するんですか、法人化のためにイベントをするんですかという。そういう、鶏と卵の論議になっていますよ。加藤さんはそれでいいと思っているかもしれないけど、ほかの人はどう思っているか分かりませんよ。私たちは何のために法人化するんですか。そもそも法人化しなくてイベントができるなら……。

【加藤】それは堀田さんがまとめていただいたので……。

【本田】ちょっと待ってください。手短にとおっしゃったから、手短に今言おうとしているんですけど、ちょっと聞いていただけませんかね。

【加藤】じゃああと1分です。どうぞ。

【本田】いや、ここまで既に30分、私たち待っているんです、議論。長過ぎるんです、説明の時間が。

それで、なぜ法人化するのかって、イベントのために法人にするんですか。もっとほかの活動をするために法人化するんですか。法人化しなくてもイベントができるんならそれでよしということになっちゃいますよ。

【加藤】分かりました。その目標というのは先ほど、堀田さんの提案に基づいて、兼保さんや高松さんからも御賛同いただいた目標ということで、確認しましたので、それでは山崎さん、アジェンダのもう一度、先ほどの堀田さんの御説明のところに戻っていただけますか、7つの、決めていただく。

これで、大方針のところで、今、目標、目的が済みましたので、次、会合の名前。これ、堀田さん、進めていただきます？　私がこういうふうに司会をしていいですか。どうしましょうか。

【堀田】加藤さんのほうでお願いします。

【加藤】分かりました。それでは会議の名称、これはもう何回か議論しているとおり、ポチ2で決まったということだと思います。

それから、次の会合のテーマですけれども、これはいかがでしょうか。その後、皆さんからあまり御意見がなくて、前回は「インターネットの自由」に賛同される方がお二人ぐらいいたように記憶しているんですけれども。ここにある3つ以外の御提案がなかったので、できればもうこの3つの中で1つに、今日投票したいと思うんですが、よろしいでしょうか。

山崎さんから、Zoom投票ができますということですが……。

あ、高松さん、手が挙がったので、よろしくお願いします。

【高松】1点だけちょっと。私も会合のテーマのほう、2番目が基本的には賛同したいなと思っていたんですけども、この「デジタルデバイドからウクライナ危機まで」というのがテーマの中に入っている点が少し心配になりました。コメントのほうにもちょっと、Google Docsのほうを書かせていただいたんですけれども、はっきり書いてあると、そういう感じのセッションがイベントの中にあるのかなということを期待して参加される方がいらっしゃるんじゃないかなと思いまして、もしそれが確定しないとか、そういうセッションが設けられるかが怪しいなというところがもしあるようでしたら、「今こそ知るべきインターネットの話題」までで止めるというのもありなのかなというふうに思って、ちょっとコメントのほうを書かせていただいています。

以上です。

【加藤】確かに、「ウクライナ危機まで」というと全く、それを期待して来る人がいるかもしれないということですね。

【高松】はい。

【加藤】皆さんいかがでしょうか、この点は。

上村さん。

【上村】取りまとめをした立場で少し補足をさせていただくと、当然、ここで選んだテーマに沿ってメインセッションというか、基調講演のようなことも段取りすることになりますので、今、高松さんがおっしゃったような点も含めて選んでいただく必要があります。

ただ、旧プログラム委員会といいますか、候補をいろいろ出していただいてまとめた際に、やっぱり最新の話題について触れる必要があるだろうということもあって、当然ウクライナ危機に関するような、例えばインターネットのシャットダウンの問題だとかいうことも含めて、例えば2を選んだら取り扱うことになるんだろうなというイメージで、私としてはまとめました。

同様に、「インターネットの自由」ですね、これも同じで、これを取り上げるからにはそれに関するテーマセッションのようなものを設けるなり、基調講演のようなものをするというイメージでしたし、それぞれに決まれば、じゃあ皆さん、それについて何かネタはありませんかというようなヒアリングをするようなつもりでおりましたので、そのことも含めて御確認いただければと思います。

以上です。

【加藤】上村さん、そういう意味で、高松さんの御提案を含めて、「デジタルデバイドからウクライナ危機まで」をカットするという案は必要ないということですか。

【上村】そういう意味ではそれもありかもしれません。ちょっと前広に入れたというのもあるので、そうですね……。

【加藤】もう1つ、「デジタルデバイドからウクライナ危機」というと非常にスペシフィック、デジタル

デバイドは割と広いんですけどね、言葉として。ウクライナ危機と言ってしまうと、本当にそんなことに興味があるような気がするんですけどね。

【上村】修正動議で副題を外すというのもありかもしれません。

私からは以上でございます。

【加藤】それじゃ投票ということをせっかく山崎さんから言っていただいたので、1の「インターネットって誰のもの？」……。

【本田】すいません、手を挙げているんですけど。

【加藤】もうこれで大体議論を。この3つの中のどれかについてですか。

【本田】いや、手を挙げているんです。

【加藤】3つの中のどれかについてですか。

【本田】それはもちろんそうですよ。

【加藤】じゃあ本田さん、どうぞ。

【本田】手短に。今、高松さんがおっしゃられた、絞ってしまう、広くやろうとしたものが逆に絞ってしまうんじゃないかということは、全くそのとおりだと思います。

で、3つ目のものだと、逆に「インターネットって自由じゃないの？」という変な疑問が湧いてきてしまうので、分かっている人には、インターネットはこういうふうに自由度が失われようとしているんだとちゃんと分かってくれるんですけども、そんなことは分からない人が大半かもしれないので、私は「インターネットって誰のもの？」という、この不意打ちを受けるような質問ですが、非常に重要な質問を投げかけるというのはいいと思うんです。

【加藤】分かりました。

前村さん、手が挙がっていますが。

【前村】すみません、2の御説明、ありがとうございました、上村さん。確かに「デジタルデバイドからウクライナ危機まで」というふうな書き方は、そういうふうなテーマ取りを想定したというようなお気持ちは分かるなと思ったんですが、もしそういうテーマがしつらえられなかった場合ということもありますので、これ、「デジタルデバイドからウクライナ危機まで」というところを削除して、「今こそ知るべきインターネットの話題」で止めるというふうな、修正つきの2番というのがいいんじゃないかと思ったので、それを表明させていただきます。

【加藤】ありがとうございます。私も今、ちょっと投票ということで、2を2つに分けて、今の長いものと後半を外したものの2つ、全部で4つの中から1つ投票していただくというのでどうかなと思っています。

【前村】そういう方法もあるかと思います。ありがとうございます。

【加藤】それで、山崎さん、それ対応できますか、Zoom投票で。

【山崎】ちょっと今、チャットの対応をしようとしていて聞けていませんでした。もう一度お願いしま

す。

【加藤】ごめんなさい。この「インターネットって誰のもの？」、「今こそ知るべきインターネットの話題：デジタルデバイドからウクライナ危機まで」、次は3つ目として「今こそ知るべきインターネットの話題」というのを短い3つ目、4つ目を「今、改めて問われるインターネットの自由」、これ、1、2、3、4で投票するということはできますか。

【山崎】はい。できますが、設問をつくるとなるとお時間をいただかなきゃいけないので、もし何か先に進める事項があればそちらを先にお願いします。

【加藤】はい。じゃあ先に、その投票を山崎さんができた段階でやるということで、開催形態に移らせていただきます。開催形態ですけれども、これは今までの議論の中で大体、オンサイトはある程度限定して、コロナの見通しも分からないんで、オンサイトは限定して、オンラインもハイブリッドでやるという流れかなと思うんですけれども、皆さんいかがでしょうか。私がコメントに書かせていただいたとおり、ハイブリッドでやる場合のオンラインの施設がきちっと提供できるかどうかというのを含めて、場所の選定というのはプログラム委員会の中のイベント委員会機能のほうで対応していただけないかなと思いますが、いかがでしょうか。今までの流れからいうと、JPNICさんの会議室でやるというのは常にバックアップで、勝手に、前村さん、言ってしまって申し訳ないですが、そう思います。

前村さん、お願いします。

【前村】ショートに。JPNICの会議室でやるというのが、今やちょっと無理かなと思います。オフィスの縮小をいたしましたということと、感染症でディスタンスを取ろうとすると収容人数が限られるからです。

【加藤】何人ぐらいになるんでしょうか、その場合。

【前村】その前に、会場を、ちょっと予算に応じてシャビーになるかもしれないんですけども、会場を借りて行うということに関しては、そういうふうな予算取りはできているので、どうにかこうにか会場の御提供はできるんじゃないかなと思っているところです。

【加藤】分かりました。ありがとうございます。それじゃここはもうほとんど議論なく、今の前村さんの御説明どおり会場を取って、それでその場合、その会場はオンラインも設備可能ということですね。

【前村】はい。そのようなことでお考えください。

【加藤】じゃあそういう前提で、プログラム委員会はお考えいただければと思います。

上村さんの手が挙がっていますけれども。

【上村】これ、何で旧プログラム委員会のときに私がこれを上部組織に決めてくれと言ったかというと、セッションの募集をするに当たってというか、応募する側ですね、応募される方が、一体どういう形態なのか分からないと応募のしようがないだろうと思ったからです。ということで、これを随分前からお尋ねしていた次第ですけど、今の流れだと……。

【加藤】ハイブリッドという……。

【上村】ことになるんですね。

【加藤】ええ。

【上村】分かりました。

【加藤】じゃあそれで決定ということでお願いします。

あと、ロジチームを立ち上げるというのは、これは先ほどのB案ということで、プログラム委員会が広がったので、もう一度募集をかけて、ロジのほうもぜひやるというようなことを議論していただくということで、立ち上げるという、ここの御質問ですけれども、そういうふうにやっていただくという理解でよろしいんでしょうか。

経費はということですけれども、先ほど前村さんの御説明をいただいたとおり、少なくとも場所の費用はJPNICさんでお持ちいただけるという大変ありがたいことなので、それ以外に後で出てくる英語の扱いのところ、その費用をどうするかという辺りですかね、費用として大きなのは。具体的にこういうことをするのにこういう費用がかかるというのは、活発化チームのほうに適時上げていただく、プログラム委員会から上げていただくということになるかと思います。

ここの御質問の、場所の公募という点も、先ほどのJPNICさんの今の状況との関係で、こういう場所というのは多分、前村さん、ある程度もくろみはお持ちなんでしょうかね、これ。

【前村】場所選びに関しては何も手つかずで、今まで使っていたところというものしかないんですが、どうにかできるんじゃないのかなと思っています。

【加藤】分かりました。それではその特定は、JPNICさんの予算というか、今の状況を確認した上で、プログラム委員会のロジチームでやっていただくということで……。

【前村】そうですね。検討を進める中で具体化していければなと思います。

【加藤】分かりました。

【前村】あと、もう1つ、御了解いただきたいのは、最終的には感染症の状況によっては、ハイブリッドがままならないという場合もあり得るということです。

【加藤】そうですね。オンサイトの部分は本当に、オンラインのためのチームのみという、それに近い状態になるかもしれないですね。それは参加者全員、理解できると思いますので、よろしいと思います。

では次は、時期を決める、ですけれども、これももう御提案いただいていて、できれば10月17日の週またはその次の週ということで、そのうちの2日間、この日がいいとかいうのを大体今日決めれば、これ、上村さん、早いうちに決めれば決めるほどよろしいんですよね。

【上村】これは一月半前の段階では、手を挙げてセッションを出してくださる方の予定も踏まえて、日付を決められるかなと思っていました。ですが、だんだん近づいているので、もしかするともう主催者サイドでというか、我々サイドで決めたほうがいいかもしれません。なので、当初は、手を挙げてくださるセッションに、そういう方の予定も考えようとしていたということですけども、その辺も含めて……。

【加藤】それで、僕はちょっと書かせていただいていたんですが、平日だけがいいのか、週末がかかるほうがいいのか、週末がいいのか。それから、時間帯としてどの時間がいいのかと、この辺だけは何となく決めたほうがよろしいんでしょうかね。

【上村】そうかもしれませんね。話がどう流れるか分かりませんけど、例えば高校生のセッションを登壇させるとなると、金曜の夜よりは土曜の昼間のほうがやりやすいとか、そういうこともあるかもしれませんので、例えば平日2日連続よりは金・土にするとか、そういうほうがいいのかもしれません。あ、でも高校生は土曜日、授業はあるかもしれませんけど。ただ、平日よりは週末のほうがいいかもしれません。

【加藤】よく学会なんかの発表会とか、そういう会議は割と週末にやるんですよね。やっぱり社会人とかが参加しやすいとかいうことがあって。

【上村】そこも多分、検討の余地があるところだと思いますけれども、ちょっと本田さんがいなくなってしまいましたけど、インターネットガバナンスにはいろんなバックグラウンドの方が参加されて、その業務の一環で出ることのできる方もいれば、例えば有休を使えば出られるという人もいるし、全くそうでなくて個人の時間で出なければならないという人もいるわけなので、どこにしたらうまく収まるかというところはないと思います。その中で、できるだけ多くの人が参加しやすいということを考える必要がありますが、もし2日に分けるんだったら、私は、平日、金・土のような、週末を挟む、週末にかぶるような開催ができるといいのではないかと個人的には思います。

【加藤】先ほどのお話で、上村さん、日付は今日まだ決めなくていいんですね？

【上村】はい。なので、今日この場で決めなければならないということではありませんが、後ろになればなるほど、我々のほうで決めなければならなくなるということになると思います。

【加藤】分かりました。じゃあ今日は、平日だけか、週末、土曜日も併せて考えるかというオプションと、それから、時間は午前中からやるのか、夕方とか、前回も4時からとか、そういう3時間とかですね。3時間以上だと遠出もできないということですが、大体方向性として、平日または土曜日かというのは、どういう方が参加してくるか、先ほどの高校生の方とか、仕事を持っている方とかいうことを考慮して、週末の可能性もあると。それから、時間としては3時間をめどに、そういうことであると夕方という、前回のようなことがいろんな方には都合がいいのかなと思いますけど。今日決めるということじゃないですけど、大体の方向性としてはそういうような感じということでいかがでしょうかね。

　これ、上村さんか、堀田さんか、募集要項の中にある程度こういう時間帯、この辺の時期ということはどこまで書きますかね。

【上村】今、表現をしているのは、11月後半の2週間のどこかという程度ですので……。

【加藤】それで、募集するときは不都合はないですか。

【上村】5月中に募集を開始できるのであれば、何とかなるんじゃないでしょうか。ただ、その場合は、いつまでに日を決めるのかを決めておかないと、応募した方ができる日なのかどうかが分からなくなっ

てしまうので。

【加藤】そうですね。それと、先ほどの場所を決める場合も、場所もどの時間にどこを借りるかというのも、どこかでフィックスする必要があると思いますので。

じゃあ今のような議論を前提に、プログラム委員会のほうでこの日までに決めると。プログラム委員会の中ではこういうのがいいだろうという案を持っているというふうに、次回上げていただくことはできますか。次回は5月30日の予定なんですけど。

【上村】それは新プログラム委員会の役割かと。

【加藤】新プログラム委員会のということで。

【上村】ちょっと分かりません。そうするのがいいと思いますけど。私が答えられるのか……。

【加藤】分かりました。じゃあ、そういうことで5月30日までに、もしそれより早く決めてくれというのであれば、新プログラム委員会の関係者からこのメーリングリストに伝えていただくということでお願いします。

ということで、先ほどの会合のテーマ、4つのテーマについて山崎さんのほうで投票の準備ができたそうですので、今書いていただいている4つの選択肢から、これだというのを順に投票していただけますでしょうか。

ちょっと山崎さん、投票の仕方を御説明いただけますか。

【山崎】はい。これから投票画面を出します。そうすると、択一で4つ選択肢が出ますので、左端の丸のところをクリックしていただきますと、スマホですと、だから指でタップですかね、そして「送信」と押すと投票ができます。非常に簡単だと思います。

投票時間はどれぐらいに、投票が落ち着いて動かなくなったら締め切って、結果を表示するということになります。

【加藤】そうですね。20秒とか30秒でいいんじゃないでしょうかね。

じゃあ山崎さん、お願いします。

【山崎】はい。開始しますね。見えておりますでしょうか。

【加藤】はい。

（Zoom投票）

【加藤】今、20秒、25秒ぐらいたちました。まだ投票されていない方はいらっしゃいますか。16人の方が今、参加されているんですが。

【山崎】10名の方が投票なさっていますので、6名の方がまだ迷っていらっしゃるか、まだクリックなさっていないか。

【加藤】じゃあ、あと10秒待ちます。

山崎さん、その後、10名から増えました？

【山崎】いや、増えていません。10名のままですね。

【加藤】ということは、10名の方のそれでは結果を読んでいただけますか。

【山崎】はい。では、投票を終了します。

【加藤】イノウエさん、分かりました。ありがとうございます。ちょっとチャットに書いていただいた方、そういう方もいらっしゃるので大丈夫ですよ。

【山崎】これから結果を出します。結果は見えましたでしょうか。

【加藤】はい。

【山崎】1番「インターネットって誰のもの？」が1人ということで10%。2番「今こそ知るべきインターネットの話題」で「デジタルデバイドから」がついたもの、こちらが20%。3番が「今、改めて問われるインターネットの自由」、これが40%。4番目が追加になった分、デジタルデバイド以降を取ったもの、「今こそ知るべきインターネットの話題」、これが30%ということで、「今、改めて問われるインターネットの自由」、3が一番多いという結果になりました。

【加藤】決戦投票をやるとかいうやり方もあるかもしれませんが、これはもう決めの問題なので、一番多かった「今、改めて問われるインターネットの自由」ということで、よろしいでしょうか。前回もそれを強く主張される方が結構多かったというふうに理解しておりますので、いかがでしょうか。と言うと、自分はちゃんと投票した、されなかった方はあれですけれども。それで決めさせていただきたいと思います。

【前村】よろしいかと思います。

【加藤】それではそういうことで、次に移らせていただきまして、先ほどの順番でいきますと、主催、後援などということで、これもプログラム委員会のこのまとめに書いていただいたとおり、基本は前回と同じですが、もし組織化が進んでいれば、組織化の名前の出し方をそのとき決めると。ここに書いていただいたとおり「少なくとも誰が関わっているのかは公表すべき」、当然公表すべきだと思いますが、その公表の仕方については、堀田さん、上村さん、名前のもし出し方をこういうふうにするというのが、御提案があったら、具体的にはまた御提案いただければと思うんですが、いかがでしょうか。

【堀田】堀田です。今の時点では、去年と同じ出し方しかできないですね。

【加藤】ということですよね。先ほどに若干戻りますけども、堀田さんが書かれたフローチャートの流れでいうと、もしそのときに法人がまだ設立されていなくても、今こういう動きがありますということをこの場で説明していただくだけでも、十分目標を達成すると思うので、そこはフレキシブルに考えていただければなと思っています。

【上村】上村ですけれども、よろしいでしょうか。

【加藤】お願いします。

【上村】私は若干それよりは踏み込んだ公表があったほうがいいのではと思い始めているんですけども、例えば活発化チームって誰なのかというのは、今どこを見ても分からないわけですよね。それから、プログラム委員会って誰がやっているんですかというのもやっぱり分からないです。なので、この流れ

だとなかなか公表は難しいと思うんですけれども、やはり「こいつら一体誰なんだ」ということに対して、少しでも答える必要があるような気がしたので、誰が関わっているのかを公表すべきということを申し上げました。ただ、結論として前回と同じレベルということになるのであれば、それも仕方ないように思います。

以上です。

【加藤】分かりました。じゃあ、これはどうですか、少なくとも誰が関わっているのかというのは、ここで書かれた趣旨は、活発化チームはこういうメンバーですという現在のリストを例えばつけると、こういうことですよね。

【上村】そうですね。APrIGFとかだったらMSG (Multi-stakeholder Steering Group)が誰ですとかって出るわけじゃないですか。ただ、その活発化チームのメンバーシップがどこまでなのかというのもはっきり言って決まっていないところもあると思うんですけど……。

【加藤】そうなんですね。オープンなので、ここに登録されている今、百何人か、このメーリングリストに登録される百何人かを全部出すのかという。

【上村】私は出すんだと思って最初から参加していたので、出さないといった話になり始めていて、若干違和感を抱きつつあるんですけど、ただ、今からそう言われても困るよという人が100名以上の中にはいらっしゃるでしょうし……。

【加藤】そうなんですよ。私も、少なくともこういうのは出たりするというのは当然ですよと、会議自身も発言は全て出ますよという了解の下にやっているのと同じように、出るということですが、その出し方についてどうかというのはありますけども。

そこはいかがですか。これ、堀田さんなんかはどうお考えですか。ほかの方も。

【堀田】堀田ですけれども、ずらずらと100人書くわけじゃなくて、リストはここにありますってポイントは書くんですよね、きっとね。

【加藤】そういうことですよね。活発化チームA。

【堀田】そこに名前が並んでいるのはいいんじゃないですかね、みんな並んでいても。要は、傍観しているだけですという人も含めて出てしまうんでしょうけど、いいんじゃないですかね。

【加藤】じゃあこうしましょうか。それは、少なくとも活発化チームは誰で、プログラム委員会は誰ですというリストを、クリックすれば見られるようにする。その中にそういう形で出しますということをメーリングリストで言って、どうしてもそういうのが、消してほしい人は消しますとかって言いますか。オプトアウトの権利があるかどうか。

【堀田】そうですね。法律的にはないとまずいんですよね。

【加藤】ないと思います。今回はもともと参加してきているんですからね。やってしまってもいいと思いますけれども。

【上村】またそれも、活発化チームのメーリングリストに入るときに、どういうことになるのか説明し

ていないような気もするので、していればいいと思うんですけど。ちょっと今から出せとも言いにくいでしょうから。せめてプログラム委員会だけは出すとか、何か間を取ることは可能かもしれません。

【加藤】どっちがいいですかね。プログラム……。

【前村】今の上村さんのポイントに関しては、メーリングリストに入るときに、これがチャーターですよという御案内をしているので、そのチャーターに従うというところまでは御認識いただいているというふうな希望的観測があります。ただ……。

【山崎】山崎ですけども、それは正しくなくて、入った後にチャーターの案内をしてしまっているので、入る際にそれを見ていただいて、同意して入っていただくという手続は踏んでおりません。

【前村】そのことを申し上げたんですけども、結果的にはオプトアウトしないとまずいだろうなと私も思います。すいません。面倒くさい説明をしました。ごめんなさい。

【加藤】いえいえ。

【上村】ちょっと、なので、そういう状況で活発化チームの名簿を出すのであれば、出さないほうがいいかもしれないという気がしてきました。というのは、それ、オプトアウトの対象なのかというのが、私にはよく分からないからです。会社の取締役の名簿に私は出しませんとかってあるんですかね。ちょっとそれが……。

【加藤】いや、取締役は絶対出さないといけないでしょう、普通は。届出事項である内容ですしね。

【上村】そこまでのものではないんですけども、オプトアウトするというのは何か性格が合わないかなという印象なんで、ですから、名簿を公表すべきと強く主張するものではないというのは、そういうことも含めた上での発言です。

【加藤】ということはちょっと、基本は前回と同じということで、もし何かここを変更するとしたら、上村さんなりほか、こういう方法ならいいという案があれば、それを出していただく。どちらにしても活発化チームという名前は出てくるので、その後ろにフットノートをつけて、そこをクリックすればそれは誰かというのが見えるようにするかどうか。その見える先をどういうリストにするかという話なので、今日のこの決定は、取りあえずは前回どおりのところでいくということで次に行きたいと思いますが、よろしいでしょうか。

もう1回、上村さん、どうぞ。ああ、分かりました。賛成していた。

じゃあ最後の英語の扱いですけれども、これは前回のお話でも山崎さんから、若干の通訳さんの費用はあるけれども、全部の会議に同時通訳を全部つけるというほどの費用はないということだったと理解しているんですけれども、そういう意味で、想定として、1つのセッションぐらいは英語をしゃべる人が参加してくるというようなイメージで、それだったら、そのセッションについては英語と日本語の同時通訳をつけると、1時間分。そんなイメージでよろしいんでしょうかね。

【上村】そこも私が補足をしたほうがいいと思うので、補足します。当日もさることながら、そこに至るまでのプロセスのケアのほうがむしろ大きいと思います。当日は通訳を雇えば済む話ですけど、例え

ばその募集要項を今、日本語で書いているものを英語にするとか、そもそも英語を専ら読む人のコミュニティーにそれを投げるとか、そういったタスクを含めてどう考えるかということです。なので、する、しろという話であれば、それができる人がプログラム委員会の中にいなければできませんし、プログラム委員会もそういう人を募るべく人集めをしなければならなくなるということなので、それはちょっと、その英語の件が少し、2回前の活発化チームの議論から広がっているような印象があります。

2回ぐらい前というのは、その募集要項をこれで来週出せます、出したいと思いますという素案を出したときに意見をいただきました。その中では、そういった募集に至る手続、プロセスについては日本語だけでやり取りするとしても、当日のセッションとか登壇者には英語を話す人が、英語だけを話す人がいてもいいようにしてはどうかという話がありました。つまり、その募集要項を英語にしたりする必要はなかったわけですね。ただ、その後、メーリングリストなどで、いやそうではないと、英語だけできる人がアクセスできるようにしなければならないというような話があって、若干議論が行ったり来たりしているので、ここも旧プログラム委員会としては困ったなと思ったところです。

【加藤】それはいかがですか。私、確かにそういう御意見はあったけど、現実的に日本語で募集をして、ただし、そのセッションの中に英語オンリーの人が入ってもいいので、それについては内容を考慮した上で、必要であれば同時通訳をつけることも検討するという、そういう募集内容でいくのが現実的かなと思っているんですけれども、皆さんいかがでしょうか。

つまり、募集要項自身は日本語だけにすると。日本のコーディネーターの人が、英語オンリーの人もセッションの中に呼んで国際的なセッションにする、それは可能であるということを日本語の募集要項の中で書くというのが私の理解というか、提案なんですけれども。

【立石】すいません、加藤さん、ちょっと手を挙げて。立石です。ちょっと出られなくてすいませんでした。JAIPA、立石ですが。

今、ちょっとこの件だけですけど、実は昨年のAPrIGFのときに、私、通訳を雇おうとしていて、最後の最後で断られてしまったんですよ。というのは、あまりにも専門的過ぎるということで、これは通訳するところの質というか、考え方によって変わってくると思うんですけど、結構断られる可能性が高いような気が、日本語を英語に通訳すればいいというぐらいのところを雇うんだといいんですけど、そうなるとちょっと品質がどうかという話と、それなりのところをやろうとすると、結構弱られて、いや、そこ、こんな難しいこと、かなりのところをお願いしたんですが、あまりにも専門的過ぎてという、やっぱり翻訳する方のプライドみたいのがあって断られたんです。

なので、ここの辺は、セッションする人に押しつけてしまうと非常に申し訳ないとは思うんですけど、自分自身が昨年やった経験からいくと、セッションをやっている人か、その人が連れてくる通訳に対して何とか予算をつけるといったスタンスを取らないと、多分探すのが非常に大変で破綻してしまうか、後で報告するときに英語をつくるとかいうのはまたちょっと別の話だと思いますけど、セッションそのものは結構その同時通訳、時間を食うというのもあるんですが、結構面倒なことに実は昨年なりました

ので、すいません、御参考までです。

以上です。

【加藤】ありがとうございます。同時通訳で100％というのはほとんどあり得ないのは皆さん御存じなので、なるべく専門的な人を選んで、できるところまでやってみるということしかないと思います。だから、そういうことを我々トライしてみるという意味で、ここはそういうセッションがあるのもいいのかなという程度ですね。

【上村】加藤さん、上村です。

【加藤】はい。

【上村】今の募集要項では、提案は日本語でしてください、でも当日は英語でも構いませんという表現ですが、そういう方向ですか。

【加藤】そういう方向だと思います。

【上村】そうですか。ほかの方の御異論がなければ、そうするのがすっきりすると思います。

【加藤】何か、もうそれは絶対よくないという御意見はございますか。私もかなり現実的なことを申し上げているつもりなんですけども。

【前村】私はそれが現実的で好ましいと思っています。

【加藤】ありがとうございます。じゃあそういう方向で。

これで、堀田さん、御質問事項というのは全部カバーしたつもりなんですが、それでよろしいでしょうかね。

【堀田】大丈夫だと思います。あとは、あれですよね、さっきの、活発化チームなのか、プログラム委員会なのか分からないですけど、誰が……。

【加藤】議長の話ですね。

【堀田】誰が募集しているのかというところで、さっきのロードマップのところに書きましたけど、やっぱり強い人の名前があるとほぼ解決するのに、と思うことがいっぱいありましたということですね。

【加藤】みんなそれは賛成だと思います。ありがとうございます。

【堀田】加藤さんがいいなとか思いながら聞いていました。

【加藤】それは駄目です。（笑）

じゃあ、次にアジェンダに移らせていただきたいと思います。プログラム委員会、大変御苦労さまでございますが、引き続きよろしくお願いします。私も名前を入れさせていただいたので、なるべく参加するようにします。

山崎さん、もう1回アジェンダに戻っていただけますか、全体の。

ということで、次のNRI組織づくり、仕組みについてなんですけど、これ、現在、前村さんがずっと説明していただいて、ドラフトしていただいているので、少なくとも今のここの趣意書とか組織化案程度について、前村さんからいろいろ御説明をいただければと思いますが、よろしいでしょうか。

【前村】ありがとうございます。山崎さん、ありがとうございます。

ちょっと1枚、新たなドキュメントを書いて持ってまいりました。組織化に向けた活発化チームにおける合意形成についてという、少し分かったような、分からないような文書の名前になっているんですが、これ、ちょっと下へ繰ってもらえますか。

今、「現在までの組織化議論で取り扱ったドキュメント」というところに、3つドキュメントが出てきています。これ、前回の会合に資料として御提示をして、それから皆さんにいろんな御意見をいただいているものです。これ、具体的なものがなければ組織化の議論が具体化していかないだろうなということで書いてみたんですけども、それで上にちょっと上がってみてもらえます？

ちょっと気づいたことというのがありまして、それで、それが「はじめに」というところに書いてあるんですけども、組織化に関しては、法人の設立というのは設立発起人グループが進めるものだということなので、一義的には活発化チームという、今こうやってボランティアで有志が議論しているというところから手を離れて、設立発起人グループに委ねるというふうなことになるわけです。そして今、活発化チームがこういう規模がいいなとか、こういうことができるといいなと言っているということと、実際に法人として成立させることができるスケールというのも、これはアプローチをやってみて初めて、その向こうにあることだということなので、これも多分に設立発起グループの主体的な取組に委ねられていると。

そこの領分に入るものというのが、案外この今までに組織化議論で御提示してきたドキュメントの中にたくさんあるなということで、その中でどういうふうに議論を進めたらいいかということを少し考えたんですけども、結果的にどこまで活発化チームとして合意に至らしめて設立発起グループに引き渡すのか、その辺を申し渡し事項として合意形成をするということなのかなというふうに思ったというのがこのドキュメントです。

で、下に繰っていただいてください。現在までのところが見えるようにしていただけるとありがたいです。ありがとうございます。

それで、まず、設立趣意書案というところで、これ、リンクを見ていただいたら、おなじみのものがありまして、御指摘、コメントいただいたものに関しては、それに合わせた修文を今、付け加えたものがバージョンとして立ち上がっていますけども、こちらに関しては、新たな法人の使命や活動方針を明確化するものだと思いますので、活発化チームでテキストに合意をした上で、設立発起グループにはできるだけこれをそのまま使っていただきたいと。エディトリアルな修正によって設立趣意書としては採択できるぐらいのレベル、実際にはいろんな付け加えるものがあるし、それは好ましいものであれば大歓迎だということだと思うので、それは容認するかもしれないんですけども、ただ、考え方としては、できるだけ申し渡して、このまま使っていただきたいなと。したがって、これに関してはバッチリ同意に至らしめたいなと思っているということです。

それで、組織化案と、あと定款案という2つのドキュメントがあるんですけども、こちらは、組織案の

ほうは定款にする上での考え方の要諦みたいなものが書いてあるものです。様々な事項がたたき台として記述されて、意見も寄せられていますが、これも具体的な設立容態の在り方は多岐にわたると考えられますので、設立の主体である発起グループに委ねられるべきであろうと。彼らが主体なのであって、活発化チームは主体とはなり得ない。ただ、恐らくは活発化チームでいろいろと関与していただいている方々の何人かは、設立発起にも関与なさるんじゃないかと思いますので、そういうふうなところに期待をするのかなと思っていますと。

だとすれば、組織化する上での重要な要素、こうあるべきである、例えばマルチステークホルダーの議論の場を運営するものであるべきであるとか、もう少しどの辺がこだわりポイントなのか、どの辺が欠くべからぬものなのかということを合意しておく必要があるのかなと。そういったドキュメント、申し渡し事項として書いたものを活発化チームで議論、同意するということなんじゃないかなということをここに書きました。

ちょっと下に行っていただいて……。

【加藤】すいません、前村さん。ということは、今のこの組織化案よりももうちょっとポイントだけをまとめた別の紙をもう1回作るということですか。

【前村】ええ。作ったものを合意したほうがいいんじゃないのかなということをちょっと今日は提案したい……。

【加藤】これだけは絶対変えられないということを作るということですか。

【前村】そうですね。

【加藤】それはいつ出てきますか。

【前村】それは、ちょっと考えてもなかなか書けなかったんですけども、ここ1週間ぐらいで書かないと、次の検討には乗らないだろうなと思っています。

【加藤】今の組織感は、ちょっと私なんかの理解では結構、概略で、これはこういうこともあるかもしれないという部分と、ここはもう方針的に、例えば理事を3掛ける3で9人にするのがいいかなとか、それは数字は変えてもいいよと。だけど、やっぱり3つのグループを公平にやることでマルチステークホルダーを保つ、これはマストですというようなふうに読めば、今の案は結構その辺をうまく捉えているのかなと思うんですけど。

何を言っているかというと、もう1回別の紙を作るとまた作業が大変になるので……。

【前村】そうですね。収束性はちょっと、また別のものが出てきたというのはあんまりよくないというふうに私も思うんですけど、一方で、例えばABCとか、それを幾らにするとか、個人会員とかいうのは、結構それをマストにするというふうなことよりも、そういうふうなところなんじゃないかというたたき台だと思って……。

【加藤】でも、あれはたたき台ですよね。

【前村】そうですよね。

【加藤】だから、たたき台であれば、例えばたたき台だという部分は黄色をつけるとか、何かそれでもいいんじゃないですか。ここは内容は微調整するかもしれない、趣旨を勘案して微調整するかもしれないとコメントをつけておけばいいんじゃないでしょうかね。

【前村】分かりました。そのようなことでもワークすると思います。最低限としてここは守ってくださいねと。それ以外は、ディスクレーションというのか、主体のお考えによりますというふうなことでもいいと思います。

【加藤】そうですね。

【前村】ありがとうございます。

それで、定款案のほうは、これはそれを実装してみたらこうなるよというふうなもので書いてあるので、定款案に関しては、活発化チームからは何か書き物をするということではないんじゃないのかなと思っています。

ちょっと前のドキュメントに戻っていただけるといいんですけど、それでちょっと繰ってもらいたいんですね。

定款の具体的なイメージとしてたたき台を示したが、法人設立の主体である設立発起グループに委ねられるべきものであるというふうなことを書きました。定款案に関して今後直接的な議論は行わないということでいいんじゃないのかなと思いますと。この辺に関してちょっと今日、ある時間で皆さんの感触をお伺いしたいなと思っておりまして。

その次にスケジュールのほうをお願いします。前に書いたものと今、今後のスケジュール（案）として書いたものというものの差が分かるように赤で書いているんですけども、本日5月9日で、前回示したスケジュール案では、上記の基本方針の確認ということを5月9日で完了するということを考えていたんですけども、今お示ししたようなもので、どこまでは合意するのかということをもう少し明確にして、合意を取り付けたほうがいいんじゃないのかなと思いましたので、上の御議論を今日はちょっと、5月9日にやっていただいて、5月30日で設立趣意書案と申し渡し事項の議論、議論だけではなくてこれの同意を取り付けるということをやったほうがいいと思います。すいません、これは書き方がそういうふうになってないなと思っています、ということです。

それ以降のスケジュールは何も変えていないんですけども、先ほどの堀田さんからの線表にあるように、やはりというのか、秋イベントまでには法人ができているということは死守したいなと思う上では、易しくはないけど実現はできるかなというふうなものになっていると思います。

それで、設立発起人のほうなんですけども、少し何人かの方々とお話をしている上で、アプローチは少し見えてきているような感じがいたしておりまして、これ、別に6月を待たなくても、そういう声かけというのは進められると思いますので、進めていきたいと思っております。

取りあえず私からの説明は以上にいたしまして、1ページ目に書いたようなことを、皆さんからそこはこうだとか、ご意見およびご指摘をいただければと思います。よろしくお願いします。

【加藤】ありがとうございます。ちょっとクラリフィケーション、今、最後のスケジュールのところですけれども、7月11日の「定款案ほか最終的な準備内容を活発化チーム会合で了承」、定款まで了承するのではないということですね。

【前村】そうですね。

【加藤】だから、概略について、先ほどの申し渡し議論の範囲で、設立について説明を受け、了承するということですね。

【前村】はい。設立発起グループから提示されて、「そうですか」と言うという感じのことを……。

【加藤】そういうことで、だから、そこでまた議論が全部蒸し返しになってしまったら困ってしまうので……。

【前村】はい。承認とかって書かなかったのは、了承という言葉に込めたのはそれくらいの意味合いで……。

【加藤】「定款案ほか」と書くと、定款についてもコメントできるかと読めてしまうので、ちょっと……。

【前村】そうですね。ここのポイントは、申し渡し事項が……。

【加藤】の確認。

【前村】ちゃんと確認、盛り込まれているのかということを、一目見るぐらいの機会は活発化チームになきゃいけないのかなと、それぐらいのものですと。

【加藤】分かりました。じゃあその辺ちょっとクラリファイしておくということで。ありがとうございます。

じゃあもう1回、前村さん、お願いします。

【前村】前のページのほうに戻っていただいて。ということで、この2つのポイントに関して、皆さんの今日のお考えをお聞かせいただきたいんですけども。

設立趣意書のほうの案に関しては、これは活発化チームによる設立趣意書案という形で、テキストとしてきっちり練り上げるというふうなことで考えています。こちらに関していかがでしょうか。もしお気づきの点、御不明な点などあればお聞かせいただきたいと思います。

ちなみに、趣意書案を見てみましょうか。今の趣意書案で、これ、指摘を反映したものなので少し変わっていますが、最初のほうは前提に関することなので、例えば「日本におけるIGF活動の課題」の辺りには課題意識をもう少し明確に盛り込んだほうがいいということが指摘されていて、そういうことはきっちり反映しようと思っていますが、一番重要なのは、最後の段落の「趣意」というところですね。こちらに、ちょっと今のテキストだと、あっさりしているとは言わないんですけども、鮮明に我々の思いを打ち出せているかというと、ちょっと足りないのかなという気がしています。という、このドキュメントをもう少し力強いものにして、それを次回会合で同意に至らしめたいなというふうなのが私のアイデアです。

【加藤】皆さん、いかがでしょうか。何かこういうことを強調したほうがいいとか、いろいろ……。

【前村】上村さん、お願いします。

【上村】趣意書に書くことじゃないのかもしれませんけど、この組織がグローバルインターネットコミュニティの信任を受けているということは、どういう形で表すんですか。信任を失ったらやっぱり首にならないといけないと思うんだけど。そういうことがこの中では、この限り、この趣意書とか、この組織の定款の中では表現しようがないということでしょうか。

ということと、それからもう1つ、この組織は会議の場をつくるための事務局ですよね。なので、主要なことはこの組織の外側に設計されるということだと思うんですけど、その辺も趣意書のレベルでは表現しにくいことなのでしょうか。この辺、前から気になっていたんですけど、そこは今どんな感じになっていましょうか。

【前村】ちょっと待ってくださいね。忘れないようにメモを取ろうとしています。

【上村】あと、ちなみにURLは私も欲しいなと思いました。実積先生からチャットで来ています。

【前村】ちょっと3つのことを一緒にはできないなと思ってしまっているんですけど。どうしようかな。とはいえ、リンクは必要ですね。リンクです。趣意書案のリンクを押します。

あ、ありがとうございます。山崎さん。

信任を受けていて、信任を失った場合にどうするかが書いていないということと、あと、上村さん、あともう1つポイントがあったと思いますけども……。

【上村】もうちょっと具体的な話になりますけど、会議、IGF、日本インターネットガバナンスフォーラムの事務局機能をこの組織は果たすということなんだと思うんですけど、そことの切れ目というのはどう表されるんでしょうか。

【前村】ああ、なるほど。それはそうですね。そこのポイントに関しては趣意書で今、書くような感じにしていないですね。

それで、もう1つのドキュメントのほう、組織化案のほうのドキュメントで、事務局を法人が担って、「コーカス」という言い方をしていますけども、活発化チームのような中で、サブスタンスに関して検討をする、活動内容に関して検討するというふうなことを、委員会としてつくらなきゃいけないなというふうなことを書いているんですけども、ここには少しまだ収束できていないポイントがありまして、例えば活動が、結局何かイベントをやろうとすると、それはロジスティクスが絡んでくるので、事務局たる法人の意向というのは必要なんじゃないかとか、その辺が十分には溶かし込めていないなというふうな感じの状態ですね。

だから、今、上村さんからの御指摘というのは、そういったことも、少なくとも申し渡し事項には含まれていなければならないというふうなことだと承っています。

【上村】ありがとうございます。今のコーカスの話も気になっていたところなんですけど、コーカスというのはこの法人の中のグループになりますか、それとも、法人の外のグループになるんですか。

【前村】それは……。

【上村】これも先ほどの会議が外のものになるかということに関係すると思いまして。よろしくお願いします。

【前村】今、出ている意見としては、きっちり、法人の中における委員会のような立てつけにして定義をするべきだというふうな意見があったと思います。そのような形で、法人の委員会として定義するというのは1つの方法だろうと思います。

いずれにしても、法人からの何らかの立てつけの決まり事で規定されていなければ、機能はしないだろうなと思うところですけども、これは十分な収束はまだ出ていないのかなと思います。

【加藤】この提案は、今、前村さんが言われたように、委員会として、ただし活動は誰にも左右されない独立の意見が言える場として提供する……。

【前村】そうなんですよね。結構それは……。

【加藤】そうでないと、その法人がその人たちにお金を出してサポートをするということが説明がつかないので、法人としては、そういう活動を推進する法人ですという言い方をせざるを得ないんですね。だけど、やっている活動自身は、委員会としてできるだけ独立して、主義・主張にとらわれずいろんなことができるという、そういう立てつけにするという、そういう法人だと思うんです。

【前村】はい。私もそんな感じのイメージ。

【加藤】それで、上村さんの最初の質問について、このグループが本当にレジティマシーがあるかどうかですけど、これ、内部的なレジティマシーと対外的なレジティマシー、両方の面があると思うんですけど、内部的にはあくまでマルチステークホルダー、みんなが参加できるという、まさにIGF精神に基づいて日本の全ての人に声をかけて、その人たちに参加をお願いしているものだから、これだろうということが内部的なレジティマシーだと思います。

外部的にはNRIとして今後、登録してもらって、そこと、国連とも、いろんな外部のIGFとも連携を取っていくということで、外部的にも認められる。この2つでやっていくということになるんじゃないかなと思います。

【上村】分かりました。ただ、あまりいい例じゃないかもしれませんけど、総務省とICANNとJPRS、JPNICみたいなそういう関係で、そういった対外的に、特に総務省だとか、それからグローバルな世界とどういう関係になっていくのかというのを考えたときに、日本のドメイン名の三者構造みたいなことになったら困るなと思ったんですよね。なので……。

【加藤】今回はそれを乗り越える努力をするということじゃないかと思いますね。

【上村】そうですかね。分かりました。

それから、コーカスの件は、中の組織にしないと動かないという意見が強いですし、現実的にそうだろうなという気もするので、趣旨は了解しました。

【前村】その中でできるだけ議論の自由みたいなものを担保するような決め事を書かなきゃいけない

という辺りが、あまり前例がないのかなというふうな感じもしていまして、書こうとすると苦心をするところですね。

【加藤】それがIGFだということを前提としてやるしかないですよね。

【前村】はい。

【加藤】どんな一般社団法人で非営利団体だといっても、やっぱりある程度の偏りはできてきてしまうので、それを、ないために、例えばマルチステークホルダーの理事会にするとか、いろんなことを、体裁を整えていくということなんじゃないでしょうかね。

それともう1つ、前村さんが言われたすごく重要なことは、発起人グループに細かいことは委ねるけれども、これで大枠この活発化チームが決めて、それを、趣旨を反映してもらうと。それで終わりじゃないと思うんです。この活発化チームの人たち、プログラム委員会の人たちも、これができたらその中に自然に移行していくわけですね。そういう意味で常にチェックアンドバランスは継続されるので、全部これで引き継ぎました、あとは誰かにやってくださいというのと全く違う。恐らく活動は今までと同じように、ただ、もっともっと拡大するための場をここでつくっていただくということかなと私は理解しています。それは堀田さんのフローチャートにも反映していただいているとおりだと思います。

【堀田】堀田です。

【前村】お願いします。

【堀田】大体議論はいいのかなと思うんですけど、要はNRIとしてやらなきゃいけないこと及び、やるためにやらなきゃいけないことをリストアップして、そのうちどこをこの法人が持って、どこをこの法人の上でプレーする人たち、チームが持つのかというのが分かれていないと、感覚がちょっとつかめないんです。例えばコーディネーターというのはどっちにいるんですか。今の書き方だと、法人側にいると書かれていると思うんですけど、本当に法人側でいいんですか。つまり、NRIを代表してどこかでしゃべるときに、法人の人でいいんですか。いや、法人は場をつくるだけですからというのと矛盾するなとか思いながら聞いていたんですけど。やっぱり、実際何をやるのかというのをリストアップして分けてみないと、どこまでが法人がやって、どこまでが法人たちの上でプレーする人たちがやるのかというのがはっきりしないなと思いながら聞いていました。

【加藤】堀田さんの御指摘、非常に重要なことだと思うんですが、実際は法人としてといっても、法人の職員とかいうのを雇って、その人が、専務理事が何かやりますとか、そういうイメージじゃないですよね、前村さん。やるのは、ほとんどがその中の委員会活動で、法人の中に何かのイシュー委員会があれば、その人がNRIの中でそういう必要な説明をしたりということで、コーディネーターとしてそれをアポイントされる人が、別に法人の職員である必要は全然ないと思うんですけど。

【前村】必要がないというところには同意をするところなんですが、一方で、コーディネーターは結構なワークロードにはなるんですよね。なので、専属のコーディネーターというものを確保できるのであればそれにこしたことはなく、そうすると、その職員という方はロジサイドで法人でしょうというふう

なところとあんまりかみ合いがよくなくなるというふうな堀田さんの御指摘だとすると、そこら辺にはまだ工夫が込められていないなと思っています。工夫が必要ですね。

【加藤】多分それだけ予算が取れて、そういう人を雇ってというところになれば、すごくうまくいっているんだと思います。そのときにそれを誰にするかというのは、ICANNなんかの例でも、いろんな人を結局ICANNが雇ってという、コミュニティーの中から選んでくるというイメージですよ。そこまでいけばすごいです。

【前村】だから、そうなんですね。コーディネーターは重いよねという議論は今までもあったんですけど、そんなレベルでプレーできるのかなというのはもちろんあるところですが。というわけで、ただ、今、堀田さんから御指摘があった、NRIをやる人とやるためにやることというものの峻別が必要で、リストアップして、何がどこにあるというのが明確ではないというのは、私がコーカスと言って表現しているものを委員会という形で書いていく上でも、まだ課題が、必要な作業だと思いますので、それはやらなきゃいけないですね。今の段階の組織化案ではまだ書き出せていないというふうな課題だと認識しています。

【加藤】ありがとうございます。今日のところはこれぐらいでよろしいですか。前村さんから次、5月30日に向けてどうのということも言っていただいたし……。

【前村】そうですね。早いうちに次のドキュメントというのを、今の課題をさらうべく書いた新しいドキュメントというのをちょっと書きます。

【堀田】すいません、堀田です。よろしいですか。

【前村】もちろんです。

【加藤】お願いします。

【堀田】先ほど上村さんからもあったかもしれないんですけど、結局どっちなのと。つまり、法人なりの上でプレーする人たちの役割なのというのに、例えば専門部会を設けるとか、コーカスというのは誰がつくって誰が人を集めるのというのとかも、2つ考え方がありますよね。法人が、それはあくまでも定義するのは法人の仕事だと思うのか、いやいやもう、上でどんどん好きなように遊んでください、お金と場所は出しますからというのが法人の役割になるのか、みたいなところがまだはっきりしていないなというのは、この設立趣意書とか定款などの案からちょっと読み切れないので、これは多分うちの会社の中で見せても、「え、金を出したら何をやらされるの？」、あるいは「何ができるの？」というのがまだよく分かっていないという感じがしますね。

【加藤】今、そこでこういう委員会をつくるとか、そういう専門部会をつくるというところまで多分決め切れないからですね。だけど、これから走る中で決めていかないといけないですね。

【前村】そうですね。専門部会というのも、何かテーマ別に幾つも委員会をつくるようなイメージがちょっとどうしても取れなくて、そこはまだ全然、活発化チームの中でもコンセンサスがないのかなと思うところです。

一方で、堀田さんの御指摘は、何をやるか分からないなというふうなものは、そうだろうなと思いながら、どうやって打開しようかと今ちょっと考えていたところでした。

【加藤】そこは、実はプログラム委員会に非常に近いところなので……。

【前村】そうですね。

【加藤】いろんな形で御提案いただいてということですかね。

【前村】うん。

【加藤】じゃあ今の堀田さんの2つの御指摘を前提に、前村さんのほうでもう一度アップデートする資料があれば……。

【前村】端的に課題を言っていただいたと思いますので、それに当たってみたいと思います。ありがとうございました。

【加藤】先ほどのスケジュールに基づいて、5月30日に大枠を決めていただくというようなこと……。

【前村】決めたいなと思います。一方で、そのほかの設立発起に関わるような方々にどうやってリーチアウトするかというのは、並行していろいろと、いろんな方々と相談しながらやっていきたいと思います。

【加藤】ありがとうございます。

じゃあ最後、時間が残り少なくなりましたが、あとユースとか、1つ、2つ、残っていることですね。ユース活動についてどなたか、これを取り上げる議論はありますでしょうか。項目だけずっと上がっているんですが、どなたか、これ、これはこういうことで、こういうことを議論したいとか、決めてほしいというのはあるんでしょうか。

【山崎】山崎ですが、以前提案したことがあるので、と言いつつ、時間がないので簡単に言いますけど、まず、今年、2022年の秋イベントで何をするか、IGF2023及びその前の2023秋イベントで何をするかぐらいはまず決めて、そうすると何が必要かというのがおのずと定まってくるんじゃないかと思うんですけども。というのは、ちょっと資料なしで漠とした物言いになってしまいましたけども、そんな感じで今後進めるという感じでいかがでしょうかというふうに思ったんですけども。

【加藤】何か突然振ってあれですけど、ということは、その辺、山崎さんから次、もうちょっとたたき台を作っていただく感じになりますか。それとも、プログラム委員会から何か御意見いただこうとなるんでしょうか。

【山崎】私が作っても構いませんし、プログラム委員会のほうで引き取りたいということであればお任せしますし、それはどちらでも私は構いません。

【加藤】じゃあまず山崎さんの何かたたき台をプログラム委員会の方々にも一度見ていただいて、秋に反映するならこういう形という意見をメーリングリスト上で進めるということでいかがでしょうか。次回はそれをもう少し議論するということで。

【山崎】では、特にどなたかやりたいというのがなければ、作ってみたいと思います。

【実積】すいません、実積ですけど……。

【加藤】お願いします。

【実積】ユースの件なんですけど、これ、実際に呼ぶのは来年の12月とか11月、その辺りというイメージなんでしょうか。

【山崎】IGF本番をターゲットにするかという御質問ですか。

【実積】はい。

【山崎】最終的にはそうですね。

【実積】であれば……。

【山崎】もっと長いスパンで考える必要もあるのかもしれませんが、取りあえずはそこがゴールじゃないかと今は思っているんですけども。

【実積】分かりました。そうすると、対象が大学生が高校生か分からないんですけれども、平日に来いとかいうことになると、カリキュラムというか、先生のほうにそれに合わせたそこのスケジュールを組んでもらわないと駄目なので、そうすると、年内に何らかの形をつくらないと、来年の直前になって「こういうのをやります」と言われても、誰も派遣できないし、勉強も何の準備もさせないままで、素人の学生をにぎやかしという行為以上の対応はできないので、形というか、こういうものなのでこういうイベントをして、こういうふうな準備をして、こういうふうな教育というか、トレーニングをしますというのは、できれば年内の早い段階で出さないと、教育機関のほうが対応できないです、大学を含めてです。以上です。

【加藤】ありがとうございます。そうですよね、確かに。その辺も上村先生や実積先生、生徒さんにコンタクトするとかいうことを含めて、どういう線表になるかも、ちょっと山崎さん、御提案いただけますかね。

【山崎】分かりました。

【加藤】じゃあそういうことでよろしいですか。

最後の項目としてチーム会合の運営。活発化チームの議長を決める必要があるというところで、堀田さんからこれ、コメントというか説明をいただいたので、堀田さん、もう少し趣旨を説明いただけますでしょうか。

【堀田】堀田です。ありがとうございます。2つ、3つの側面から、やっぱり誰かが活発化チーム、代表というのは変ですけど、活発化チームはこういう人が引っ張っているんだというのが分かったほうがいいかなと思いました。

その幾つかの面というのは、例えば1つは、さっきのロードマップの中に書いたんですけど、法人に引き継ぐときに、活発化チームというのはこういうことをやっていたんですという紙を例えば渡すときに、そこにちゃんとした人の名前をやっぱり書いていたほうがいいな、100人の名前が書いてあるよりも、むしろそっちのほうが必要なのかなと思ったのが1つと、あとは、今日、加藤さんにちゃんと議長をやっ

ていただいてありがたかったんですけど、結局ゴール、サブゴールを見据えながら議論を回せる方がいらっしゃるというのはとても大事だというのを今日も感じたので、そういう面でも誰か代表という、議長というのはその会議の議長ではなくて、活発化チームのチェアというのがいた方がいいと思いました。というのが、大きな点はこの2つですね。背景は以上です。

【加藤】皆さん、いかがでしょうか、この辺は。

司会ということであれば、5月30日ももう1回司会をやらせていただいてもいいかなと私は思っていますけれども、今、堀田さんが言われたようなことになると、そういう機能が必要かということと、誰がというのは別途議論する必要があるんじゃないかと思いますが、活発化チームも、もし法人化してそれに引き継ぐともうあまり長い期間じゃないですよね。これ、決めるとして、早くそういうことを決めないといけないということですね、そうすると。

【堀田】堀田ですけど、そのように思いますけど、別に今日ここで決める必要はないので……。

【加藤】ええ、今日は決められないでしょうね、もちろん。

【堀田】そういう代表が必要なのかどうかというのは議論いただいたほうがいいですね。私は要ると思っているというだけなので。

【加藤】必要なのかというのと、いたほうがいいというのと、もう今さらというので、いろいろ意見があるかもしれないということですね。

【堀田】そうですね。いないほうがいいのかもしれないですし。

【加藤】ある意味では活発化チームって、みんなが参加して、みんなで意見を言っていて、誰かがたまたまそのときに司会なりをしてまとめるというものだという言い方もあるのかもしれないですけれどもね。法人となったらそういうふうにはいかないでしょうし、恐らく今のプログラム委員会とか、そういうところの人たちがそのままイシューグループとして、先ほどの法人の活動の中に入っていかれるんだと思いますけれども。

これは、今言われたそういう、堀田さんが提起されたような、活発化チームの代表という意味での議長というのを決める必要があるかどうか、それがあったほうがいいというのか、こういう理由でないほうがいいか、なくてもいいんじゃないかというのをメーリングリスト上で議論していただいて、次回5月30日に決めるということでいかがでしょうか。

【堀田】私は結構かと思います。

【前村】前村です。それで結構だと思います。

【上村】上村です、すみません、ちょっと遅れちゃったんですけど。議論に2つぐらいの話題が混在しているような気がしまして、その会を代表する、務めるという人と、それからその議事をうまく回す人という問題と、それから活発化チーム会合の間で議論を仕切る人という、何かそういうテクニカルなことと、そうじゃないことが混在していると思うんですね。

どちらもいたほうがいいと思うんですけど、個人的には。ただ、議長を決めればいいかというときに、

その議長がどの役割なのかということも重要で、ただ、この話、もともとテクニカルに議事を進行する人が不足しているという話からスタートしたような気がするので、まずそこを解決したほうがいいんじゃないかと思ったので、その点も含めてメーリングリストで検討しましょうということであれば、私も異存ありません。

【加藤】分かりました。ありがとうございます。

じゃあそこの書き方は堀田さんにお願いしていいですか、今申し上げたような。私が何か言うのもあれなので……。

【堀田】分かりました。

【加藤】山崎さんに議事としてまとめていただくのもいいんですけど、もう1回堀田さんが言われた議長の役割と、ちょっと今、司会的な、その司会も会の司会だけじゃなくて、中間的なメーリングリスト上でのやり取りの調整といいますか、かじ取りも含めての司会と、2つを分けてそれを説明した上で、堀田さんがおっしゃっているような本当の代表としての議長を決める必要があるかどうかと、決めるならこうだろうとか、ぜひ欲しいとか、そういう意見をいただくというのをちょっとお願いしてよろしいですか。

【堀田】分かりました。私のほうで書いて直接メーリングリストに投げてしまっていいですか。

【加藤】もうそのまま投げていただいて結構です。

【堀田】分かりました。じゃあそうします。

【加藤】それで、それはちょっと違ったのというのがあったら、もちろんですけれども。そうでなければ、それをベースに……。

【堀田】じゃあ直接投げます。

【加藤】そうですね。5月30日にやるということで、直接投げていただければと思います。

ということで、一応、今日のアジェンダ、ちょっと時間をオーバーしてしまいましたけど、カバーしたと思いますが、何か最後にこれだけは言いたかったというのも、皆さん、ございますか。

【堀田】堀田です。次回、5月30日月曜日17時というのは、もうこれでいくという？

【加藤】何か御都合がどうしても悪いというのはありますか。

【堀田】いや、私自身ではないんですけど。本田さんがこの時間はずっと嫌だったというふうにおっしゃっていたから。

【加藤】個別にはいろんな方があって、私も実は結構難しいんですけども、何とか今、する方向でやっていますので、一応3週間ごとの月曜日のこの時間と決めたので、何か全体として大きな理由がない限り、それでやるというのでどうでしょうかね。じゃあまた別の日、この日ならいいというのを選ぶと、また大変でしょう？　いかがですか。

【堀田】私個人は、これがいいと思います。

【加藤】じゃあ、それに異議がなかったということで今回は、5月30日17時ということで次は予定させ

ていただいて、さっき申し上げたように、もしお許しいただくなら、もう1回司会をやらせていただいても私は結構です。もしボランティアの方がいらっしゃれば、ぜひお願いしたいと思いますが。

【前村】加藤さん、よろしくお願いします。

【堀田】お願いします。

【加藤】じゃあ、いろいろ活発な御意見ありがとうございました。今日決めたことで、ぜひプログラム委員会が進んでいただければと思いますし、前村さんのほうも大分組織化の話が進みそうなお話でしたので、よろしくお願いします。

上村さん、どうぞ。

【上村】プログラム委員会そのものを進められないんですけど、拡大はどういう、誰が鈴をつけるべきなんですかね。ちょっと私は動きにくいんです。それは個人的な思いからということなんですけど。

【加藤】じゃあ一度、もう1回プログラム委員会のほうでどなたか招集して、1回それを議論するとかいうことをやったほうがいいですかね。

【上村】そうですね。それからもう1つ、今の活発化チームのメンバー、リストに入っている方々の中で、そういう大きな話だったら付き合いたいと思っている人もいるかもしれませんから、そういうエンラージメントも必要だと思うんですけど……。

【加藤】それは引き続き募集すると。特にプログラム委員会の……。

【上村】募集するんですけど、募集していますということを誰かがメーリングリストに書き込まなければならないということですよね。

【加藤】そうですね。

【上村】そこはどうするかというのは、そこは多分事務局にしていただくのがいいと思うんですけど。

【加藤】今日のまとめみたいな感じで山崎さんから、議事録というあれじゃないけど、何かそれだけ、ここで言う宿題みたいな中に、山崎さんから書いていただくということはできますか。

【山崎】はい。前回もしましたので、やります。

【加藤】そうですね。申し訳ありません。

【山崎】その際に皆さんに確認をお願いするかもしれませんので。

【加藤】そうですね。

【上村】そしたら、じゃあそれに手を挙げる人がいそうなタイミングを見計らって、新プログラム委員会の日程調整もしてもらうとか、そんな感じですかね。

【加藤】そうですね。

【上村】そこで議論をして、誰が引っ張っていくのかとか、そういうことも含めて検討すると。

【加藤】そうですね。

【上村】じゃあまずはコールをしていただくということで、お願いします。

あと、募集の件は、じゃあ私が責任を取って調整をします。

【加藤】ありがとうございます。

以上でよろしいでしょうか。

では、これで終了にしたいと思います。長い間本当にありがとうございました。次回またよろしくお願いいたします。失礼します。

以上